

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人 六峯会		
事業所名	グループホーム グリーンピース あま城		
所在地	倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	令和4年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3390200438-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で2年間ぐらい外出は全く出来てなく、施設内で皆様に楽しく過ごして頂く様、職員で工夫している。ミニ運動会、カラオケ、お弁当と一緒に食べたりする。気分転換が出来ない分、声掛けをしっかりとしたり、笑顔がたくさん見られる様、努力している。

管理者と職員は、傾聴・受容・共感の姿勢で一人ひとりの思いに寄り添い、その人に合った支援を大切に取り組んでいる。家族からは、生活歴を聞き取ることで、本人のバックボーンを知り、その人らしい生活の継続や尊厳保持にも努めている。利用者が、夕方になると夕食の準備をしなればとの不穩になる思いを汲み取り、さりげなく声を掛け手伝ってもらうことで、今は落ち着き笑顔が見られる様になった。日頃の細やかな関わりから、感情の安定や能力の維持、意欲の向上、自立に向けての支援の実践がなされている。旬の野菜を使った手作りの食事は、楽しみの一つである。毎食後、利用者は顔を見合わせ「美味しかったね」と微笑みあっている。歯科衛生士の資格を持った職員が、毎日行っている口腔ケアは、清潔保持だけでなく、食べる楽しみにも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		2. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に、内部研修で話し合いの場を設けている。	毎月のミーティングの際には、理念を確認・共有し、実践に繋げている。「一人ひとりの思いを大切にふれあいと交流のある暮らし」は、人生の先輩である利用者との日々の関わりの中で、最も心掛けてしている理念である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までは、地域の行事に参加させて頂いていたが、コロナ禍により中止されていて、参加出来ていない。	コロナ禍で、地域との交流は難しい状況ではあるが、毎月行われている地域の資源ゴミ回収は継続している。回収のため来訪した地域の人々が、利用者の様子を気にかけ、窓越しから見守ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員はホーム近くに住む人が何人かいるため、推進委員の方とも話す事があり情報を共有出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の方には、参加して頂けていないが、文書にてお知らせはしている。ホーム内での会議は2か月に1回利用者で行い、サービス向上に活かしている。	コロナ禍で、運営推進会議は開催されていないが、2か月に1度、利用者の状況や毎月の活動報告を文書で伝えている。運営推進会議の参加者には、手紙や電話で情報交換をしている。	手紙や電話で得た情報及び意見交換した内容を、現状報告と共に文書に記載し、情報共有することで、更なる地域の理解や支援に繋がることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所を通して常に相談している。	市の担当者とは協力関係が築かれている。不明な点があれば、すぐに相談し助言を受けている。消防署が参加する夜間想定避難訓練では「夜の職員一人体制時に最も大事なことは何か」を尋ね、初期の消火方法を指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の勉強会で話し合い、情報を共有している。その時々で気になる事があれば、随時話し合いの時間を作っている。	月に1回の内部研修や3か月に1回の勉強会で、職員全員が共有認識を持ち、予防や対策に取り組んでいる。職員全員が、言葉一つひとつに愛情を込め、優しく語りかけることを心掛けてしている。また、互いに注意しあいスピーチロックにも気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の話し合いの中にも、虐待の話も盛り込んで話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1人利用者様が入所されたので、改めて情報を共有するため勉強会を開催した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	後で質問等があれば、いつでもお受けするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも受けられる機会は作っている。	日頃より、電話や手紙で要望や意見を尋ねている。家族から「コロナ禍の中訪問できない為、様子を教えて欲しい」という要望があり、手紙に写真を添え送付している。家族からは、「面会できなくても安心」と喜ばれ、信頼関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの席を設けて話し合い、その時々で出来たら相談事なども情報を共有するようにしている。	管理者は、職員の意見や提案を取り入れ、その都度、ケアに反映させている。管理者の「とにかくやってみよう。ダメなら考えよう」という考えや姿勢から、職員の提案は、いち早い支援や実践に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に意見等あれば聞き、代表者に相談するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍での外部への勉強会は行けていないが、働きながらのトレーニングはしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、お互いに行き来は現在出来ないが、手紙のやり取り、電話での情報を共有はしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前事業所からの情報を下に「どの様に過ごして頂くか」要望を聞きケアプランを作りサービス前には全職員が情報を把握している。ご利用者間との雰囲気作りに配慮し安心な居場所作りへと取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂き、環境、雰囲気、ご利用者、職員の様子を観て頂いている。ホームの特性、方針、月々の必要経費等を説明して、ご家族の要望、不安を遠慮なくゆっくり話し合いご理解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族がどのようなサービス、生活を望まれているか又、性格、現状を踏まえ何が必要かを話し合い介護計画を立て説明し同意を得ている。その後ご利用者の全体の姿を把握し段階的に見直し検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護しているのではなく、寄り添って一緒に生活させて頂いているというスタンスを通して。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で行事は出来ていない。医療機関の受診は職員が続けてしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、地域の方との交流はできてない。又、家族の方との面会も窓越しの面会なので、もどかしいと思っている。外出もずっと出来ていない。	コロナ禍の中、家族との面会も窓越しになっている。家族の承諾を得て、職員が耳の聞こえにくい利用者の側に寄り添い、会話を伝えている。家族は、職員との和気藹々とした微笑ましい様子を動画に撮り、遠方に住む家族に送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置は、その人の特性を考えて決めているが様子を見ながら変更もしている。隣の方がイスに座り易い様に直してあげられる状況もある。行事時には色々な方と触れ合いが持てる様に職員が支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ過で交流出来てない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは、聞き取れていると思う。ご自身のペースで生活していただけるよう努めている。	日々、利用者の思いや意向の把握、信頼関係の構築に努めている。「毎日、いっぱい歩いていた」と話す利用者と手を繋ぎ、曲に合わせて、心ゆく迄毎日一緒に歩いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今の姿に至るまでをご利用者、ご家族、ケア関係者の情報を基に、ご本人の生活スタイルを尊重した支援としている。ご持参品も今までの馴染みの物をお願いし、安心して暮らして頂ける環境をと考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、趣味から「何が楽しめ、何を得意とされるか」を把握し、持てる力が生活の中に出せる様にプランに反映して続けられる支援をしている。できた事を一緒に喜び自信に繋がる関わりを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の内部研修の時、カンファレンスで話し合い、本人の意向、家族の意向を聞き、反映するようにしている。	朝夕の申し送りで、日常の変化を情報共有し、介護計画の変更の必要がないかどうかを検討している。変化があれば、その都度作り直している。ケアマネジャーや管理者、看護師が、それぞれ家族に連絡する際には、意向や要望を聞き計画作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、細かに個人記録に記入、ケアマネジャーにも報告し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり個性が違っていて、その方にとって必要なサービスを提供していけたらと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、交流が出来ていない。しかし地域でお会いする職員に、利用者様はお変わりないですか。と聞いて下さる方もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望で看護師が対応している。必要時は、家族の同行もある。	提携医の往診が月6回あり、24時間の医療連携体制も整っている。本人や家族が希望する病院を受診する利用者もいる。受診の際は、3日前からのバイタルチェックや排泄状況、普段の様子を手紙に書き、付き添い者に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師の配置があり、日々の情報を共有して健康管理は充実している。24時間の相談体制があり、状態の変化時又、必要時には来訪しての対応で医療機関との連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の方を通して病状の説明など、看護師・管理者と病院に出向き、カンファレンスを受けている。職場に戻り、情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の説明は、入所時にしており、その状況になった時、改めて話し合いの場を設ける。	家族や本人の希望があれば、看取りを行っている。安らかな最期を迎えられるように、日頃から意向を聞きつつ、最期まで支援することを大切に取り組んでいる。経験の少ない職員が不安にならないよう、管理者はすぐに駆け付けられる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関係機関にすぐに連絡し対応している。職員間での話し合いも定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練。1回は、夜間を想定しての訓練を行っている。地域の協力もお願いした。職員の連絡網も確立している。	コロナ禍のため、地域の訓練参加はなかったが、地域との連絡網等があり、災害時の支援体制は構築されている。日頃から、地震を想定し「ベッドの下に隠れる」「布団をかぶる」など安全確保について、職員同士の話し合いが行われている。	訓練後の結果概要を作成し、次の訓練に活かしてもらいたい。地震時の訓練や行方不明者捜索訓練をマニュアル化し、有事の際の更なる取り組みに期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で、年1回勉強会を開いている。	入浴時は、職員一名が対応し、他の利用者と一緒にならないようプライバシー確保に留意している。ベッド上で清拭を行う際は、下半身を大きなタオルで隠し、羞恥心にも配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面での声掛け、関わりを意思決定ができるような言葉かけを意識して関わっている。想いや希望、願いを言いやすい関係の構築にも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の家で過ごしたい様にさせていただいている。職員はその希望に沿ってお手伝いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常や外出時の服装はご本人の好みに合わせているが、調節を要す時には相談をしている。ご本人の拘りで常時、肩にバックを掛けておられる方、又上着のポケットに櫛を入れて思う時に整髪される方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三度の食事を手作りで行っている。野菜の下処理など、お願いして手伝っていただいている。自由献立の日を週に一回決め、何が食べたいか希望を聞いて作っている。	一年間の献立を管理者が作成し、職員全員が交代で作っている。食事はすべて手作りである。旬の新鮮な食材を取り入れ、季節に合った食事を提供している。節分には福を願い、それぞれが、自分で巻いた恵方巻き一本をまるごと味わった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の摂取量のチェック表を作成している。10時、3時のティータイムは、職員と一緒に話しながら飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の口の状態を把握し、口腔ケアも職員が付添い義歯を外してされているか、自歯の場合は職員がチェックさせていただいている。週1回、歯科衛生士の口腔ケアチェックもさせていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導している。日中のみ布パンツを使用している方もいる。便秘予防の為、ヨーグルト牛乳を起床時に提供している。	定期誘導ではなく、日頃の様子から尿意や便意を察知し「行きたい時にトイレに行ける」支援に努めている。入所時、紙パンツを使用していた利用者が、今は夜間も布パンツのみになり、身体能力の向上にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便がある様に野菜の多いメニュー、起床時に牛乳の提供をしている。ラジオ体操、フロアでの歩行運動、散歩にと取り組んでいる。一日の水分量と排便の記録を基に必要時は主治医に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便汚染した時は、入浴をして気持ちよく過ごしていただいている。	入浴時には、職員と一緒に歌を歌ったり会話を楽しんだりしながら、寛いだ時間を過ごしてもらっている。拒否のある利用者には、何度も声掛けし、タイミングに合わせ、無理なく足浴や清拭ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、臥床休息している。眠れない時は、お茶を提供したり、会話をする様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解出来ない事があればNsに聞き、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた塗り絵や貼り絵をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、外食・ドライブに行っていたが、コロナ禍で外出できていない。ホームでお弁当を食べたり、カラオケ、小運動会など楽しみを作る支援をしている。	コロナ禍のため外出できないが、以前は、家族と外食する機会もあった。ホームの中でメリハリのある生活が送れるように、月に1～2回のイベントを企画し、気分転換を図っている。ミニ運動会では、定番のパン食い競争をはじめ、新ゲームのコップ重ね等で、とても盛り上がった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ないので、必要な物があれば家族に了解を得て、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には、お話をして頂き、年賀状は毎年書いて発送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色々な行事をした時の写真や塗り絵をした物を貼っていると、立ち止まってじっと見ている。	広々とした居間は、ゆったり過ごせる共有空間になっている。台所と対面のカウンター席に座り、炊事をしている職員と語らう。カウンターの壁に貼ってある家族の写真を見ながら、食事を楽しんでいる。壁の飾り付けからは四季が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所定の席の他にソファで気の合った人と過ごされる人、大きい窓の前で新聞、本を広げる人、ドリルをされる人、庭での外気浴ではその時々花や気候を感じ楽しむ人もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は「ご利用者の馴染みの物のご持参を」と話している。お孫さんや家族の写真を置かれる人もある。	理念にある「ご自宅と変わらない生活」を大切に、居心地よく安心して過ごせる居室になっている。部屋には、以前一緒に生活していた猫の写真を飾り、部屋に戻る度「ただいま」と声を掛けている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を間違えられる人には、入り口に花等の飾り物を付けたり、名前を大きく分かり易くしている。動線に沿った手摺の設置で安全な移動へ支援をしている。ペットの配置はその人の身体機能を考えた位置にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人 六峯会		
事業所名	グループホーム グリーンピース あま城		
所在地	倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	令和4年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3390200438-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で2年間ぐらい外出は全く出来てなく、施設内で皆様に楽しく過ごして頂く様、職員で工夫している。ミニ運動会、カラオケ、お弁当と一緒に食べたりする。気分転換が出来ない分、声掛けをしっかりとしたり、笑顔がたくさん見られる様、努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		2. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に、内部研修で話し合いの場を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までは、地域の行事に参加させて頂いていたが、コロナ禍により中止されていて、参加出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員はホーム近くに住む人が何人かいるため、推進委員の方とも話す事があり情報を共有出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の方には、参加して頂けていないが、文書にてお知らせはしている。ホーム内での会議は2か月に1回利用者で行い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所を通して常に相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の勉強会で話し合い、情報を共有している。その時々で気になる事があれば、随時話し合いの時間を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の話し合いの中にも、虐待の話も盛り込んで話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1人利用者様が入所されたので、改めて情報を共有するため勉強会を開催した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	後で質問等があれば、いつでもお受けするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも受けられる機会は作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの席を設けて話し合い、その時々で出来たら相談事なども情報を共有するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に意見等あれば聞き、代表者に相談するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍での外部への勉強会は行けていないが、働きながらのトレーニングはしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、お互いに行き来は現在出来ないが、手紙のやり取り、電話での情報を共有はしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前事業所からの情報を下に「どの様に過ごして頂くか」要望を聞きケアプランを作りサービス前には全職員が情報を把握している。ご利用者間との雰囲気作りに配慮し安心な居場所作りへと取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂き、環境、雰囲気、ご利用者、職員の様子を見て頂いている。ホームの特性、方針、月々の必要経費等を説明して、ご家族の要望、不安を遠慮なくゆっくり話し合いご理解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族がどのようなサービス、生活を望まれているか又、性格、現状を踏まえ何が必要かを話し合い介護計画を立て説明し同意を得ている。その後ご利用者の全体の姿を把握し段階的に見直し検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護しているのではなく、寄り添って一緒に生活させて頂いているというスタンスを通して。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で行事は出来ていない。医療機関の受診は職員が続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、地域の方との交流はできてない。又、家族の方との面会も窓越しの面会なので、もどかしいと思っている。外出もずっと出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置は、その人の特性を考えて決めているが様子を見ながら変更もしている。隣の方がイスに座り易い様に直してあげられる状況もある。行事時には色々な方と触れ合いが持てる様に職員が支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ過で交流出来てない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは、聞き取れていると思う。ご自身のペースで生活していただけるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今の姿に至るまでをご利用者、ご家族、ケア関係者の情報を基に、ご本人の生活スタイルを尊重した支援としている。ご持参品も今までの馴染みの物をお願いし、安心して暮らして頂ける環境をと考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、趣味から「何が楽しめ、何を得意とされるか」を把握し、持てる力が生活の中に出せる様にプランに反映して続けられる支援をしている。できた事を一緒に喜び自信に繋がる関わりを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の内部研修の時、カンファレンスで話し合い、本人の意向、家族の意向を聞き、反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、細かに個人記録に記入、ケアマネジャーにも報告し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり個性が違って、その方にとって必要なサービスを提供していけたらと考えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、交流が出来ていない。しかし地域でお会いする職員に、利用者様はお変わりないですか。と聞いて下さる方もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望で看護師が対応している。必要時は、家族の同行もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師の配置があり、日々の情報を共有して健康管理は充実している。24時間の相談体制があり、状態の変化時又、必要時には来訪しての対応で医療機関との連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の方を通して病状の説明など、看護師・管理者と病院に出向き、カンファレンスを受けている。職場に戻り、情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の説明は、入所時にしており、その状況になった時、改めて話し合いの場を設ける。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関係機関にすぐに連絡し対応している。職員間での話し合いも定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練。1回は、夜間を想定しての訓練を行っている。地域の協力もお願いした。職員の連絡網も確立している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で、年1回勉強会を開いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面での声掛け、関わりを意思決定ができるような言葉かけを意識して関わっている。想いや希望、願いを言いやすい関係の構築にも心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の家で過ごしたい様にさせていただいている。職員はその希望に沿ってお手伝いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常や外出時の服装はご本人の好みに合わせているが、調節を要す時には相談をしている。ご本人の拘りで常時、肩にバックを掛けておられる方、又上着のポケットに櫛を入れて思う時に整髪される方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三度の食事を手作りで行っている。野菜の下処理など、お願いして手伝っていただいている。自由献立の日を週に一回決め、何が食べたいか希望を聞いて作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の摂取量のチェック表を作成している。10時、3時のティータイムは、職員と一緒に話しながら飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の口の状態を把握し、口腔ケアも職員が付添い義歯を外してされているか、自歯の場合は職員がチェックさせていただいている。週1回、歯科衛生士の口腔ケアチェックもさせていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導している。日中のみ布パンツを使用している方もいる。便秘予防の為、ヨーグルト牛乳を起床時に提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便がある様に野菜の多いメニュー、起床時に牛乳の提供をしている。ラジオ体操、フロアでの歩行運動、散歩にと取り組んでいる。一日の水分量と排便の記録を基に必要時は主治医に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	便汚染した時は、入浴をして気持ちよく過ごしていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、臥床休息している。眠れない時は、お茶を提供したり、会話をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解出来ない事があればNsに聞き、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた塗り絵や貼り絵をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、外食・ドライブに行っていたが、コロナ禍で外出できていない。ホームでお弁当を食べたり、カラオケ、小運動会など楽しみを作る支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ないので、必要な物があれば家族に了解を得て、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には、お話をして頂き、年賀状は毎年書いて発送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色々な行事をした時の写真や塗り絵をした物を貼っていると、立ち止まってじっと見ている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所定の席の他にソファで気の合った人と過ごされる人、大きい窓の前で新聞、本を広げる人、ドリルをされる人、庭での外気浴ではその時々花や気候を感じ楽しむ人もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は「ご利用者の馴染みの物のご持参を」と話している。お孫さんや家族の写真を置かれる人もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を間違えられる人には、入り口に花等の飾り物を付けたり、名前を大きく分かり易くしている。動線に沿った手摺の設置で安全な移動へ支援をしている。ペットの配置はその人の身体機能を考えた位置にしている。		